

第5学年 音楽科学習指導案

ろ組 男子19名 女子18名 計37名
指 導 者 濱 田 宏 明

1 題 材 ふしの感じを生かしてⅢ

教材 「赤いやねの家」 織田 ゆり子 作詞 上柴 はじめ 作曲
「一輪の赤い花」 橋本 祥路 作曲 (本時主教材)

2 題材について

(1) 題材の位置とねらい

これまでに子どもたちは、第4学年題材「ふしの感じを生かしてⅡ」において、旋律の感じに合うように強弱や速度を工夫して演奏したり、異なる楽曲の旋律の感じを聴き比べたりする活動を通して、旋律の感じを生かした表現を工夫することの楽しさを味わってきている。さらに子どもたちは、旋律の感じの違いを生かして歌ったり、演奏したりしたいという欲求が高まってきている。

そこで、ここでは長調と短調の旋律を聴き比べて旋律の違いについて話し合ったり、音楽を形づくっている要素を観点にして互いの演奏を比較しながら表現したりする活動を行っていく。それらの活動を通して、旋律のよさを感じ取って抑揚をつけたり、自分のパートの役割を意識したりして表現する能力を育てるとともに、旋律の重なりや調の違いに気をつけて表現・鑑賞することに関心をもち、旋律の特徴を生かした表現を工夫する能力を高めることをねらいとして、本題材「ふしの感じを生かしてⅢ」を設定した。

ここでの学習は、重なり合う各々の旋律の特徴や役割を感じ取り、旋律のまとまりや曲想に合った演奏の工夫をする能力を育てる題材「ふしの感じを生かしてⅣ」の学習へと発展していくこととなる。

(2) 指導の基本的な立場

旋律の特徴を感じ取って表現したり、感じ取った旋律の重なりや役割を意識して演奏したり能力を高めるには、調の異なる二つの曲をよく聴いて旋律の感じをとらえ、音楽を形づくっている要素に気を付けながら、旋律を演奏することが効果的である。特にこの期の子どもたちには、音楽のよさや美しさを感じ取るという意識をもって範奏を聴くようにすることで、ハ長調とイ短調の違いを感じ取りながら演奏することが大切である。

具体的には、まず、「赤いやねの家」を取り上げる。この楽曲は、ハ長調の音階で、初めから後半部にかけて旋律に使われる音が上昇していき、最高音が使われているあたりで一番の盛り上がりとなる分かりやすい楽曲構成となっている。そこで、ここでは、範唱を聴き、この曲のよさや面白さを出させたり、旋律線に合わせて手の高さを変え抑揚に気付かせたりする活動を通して、曲の特徴や、盛り上がる部分を意識して歌うことのよさを実感させる。

さらに、「一輪の赤い花」を取り上げる。この楽曲は、イ短調の曲で短調の曲想をとらえるのに適している。また、中間部では、旋律の重なりとしてリズムの異なる二つの旋律が、長く伸ばす音の多い旋律と細かく刻む音の多い旋律とに分かれていて、旋律の役割に着目させることができる。そこで、重なり合う二つの旋律を、リズムや和声を観点に比較することで、気付かせ、それぞれの旋律の役割を意識しながら演奏することのよさを実感させる。

このような学習を通して、子どもたちは、音階や調、音の重なりを中心とした音楽を形づくっている要素の働きを感じ取りながら目指す表現に向かって表現したり鑑賞したりすることへの意欲を高め、音楽のよさや面白さ、美しさを味わわせることができる。また、課題解決への到達度を振り返りながら、楽しく音楽とかがわっていかうとする態度を身に付けることができる。

(3) 子どもの実態 (調査対象 5年ろ組 男子19名 女子18名 計37名)

本学級の子どもの実態は次の通りであった。

①	ふしの感じを生かして歌ったり、演奏したりすることは好きですか。
	はい(34) いいえ(3)
②	その理由を教えてください。(複数回答)
	【「はい」の理由】 ・楽しい、うれしい(15) ・曲の気分に入り込める(11) ・歌ったり、演奏したりするのが好き(5) ・色々工夫できる(5) ・わくわくする(3) ・勉強になる(1) 【「いいえ」の理由】 ・むずかしい(2) ・ふしの感じを感じ取ることが苦手(1)
③	なめらかな感じやはずんだ感じを出すために、どんなことに気を付けて歌いますか。(複数回答)
	<なめらかな感じ> ・のばす(12) ・ゆっくり(10) ・音をつなげる(8) ・優しく演奏する(4) ・小さく(3) ・スラーをかける(1) ・気持ちを込める(1)
	<はずむ感じ> ・音を短く切る(15) ・大きな音で(8) ・スタッカートで演奏する(6) ・元気よく(4) ・楽しく(3) ・明るく(3) ・わからない(1)
④	「いつでもあの海は」をなめらかな感じが出るように気を付けて歌いましょう。
	・なめらかな感じを出して歌える(36) ・歌えない(1)
⑤	リコーダーで、「陽気な船長」をはずむ感じと、なめらかな感じの違いを出して演奏しましょう。
	・はずむ感じとなめらかな感じの違いを出して演奏できる(34) ・演奏できない(3)

①②から、ふしの感じを生かして歌ったり、演奏したりすることの楽しさを多くの子どもが感じている。一方「好きではない」と答えた子どもたちは、楽曲を聴いてうまくふしの感じをとらえられなかったり、表現したりするところに難しさを感じたりしている。歌唱・器楽活動そのものに不安を感じていたり、十分にふしの感じをとらえられていなかったりすることから、目指す表現がはっきりしていないところが要因であると考えられる。

また、③から、なめらかさやはずむふしの感じを出すために強弱に気を付けて歌ったり、音のつながりを意識して歌ったりすることの重要性を捉えている子どもが多い。しかし、表現したいふしの感じはあるものの、具体的な方法が分からない子どもや、答えることができない子どももいる。そこで、表現を工夫する手がかりを、音楽を形づくっている要素やそれらの働きに求めるようにすることが必要である。

④⑤から、ふしの感じを歌やリコーダーで表現することはほとんどの子どもができていて、できていない子どもについては、音の流れを追うことはできても、決まった速度でなめらかにするために音を十分保ったり、短くリズムよく演奏したりできないこと、またスタッカートへの理解の不十分さが要因であると考えられる。

(4) 指導上の留意点

以上のようなことをふまえて、指導に当たっては次のようなことに留意したい。

ア 課題把握・課題追求Ⅰの過程では、歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって進んで活動に取り組むことができるようにしていく。そのために、子ども自ら考え、試行錯誤し、主体的に歌唱の活動に取り組んでいくよう、今までの生活経験と関係付けたり、想起したことを話し合ったりする場を設定する。

イ 課題追求Ⅱの過程では、ハ長調とイ短調の曲を子どもたちが比較し、音楽を形づくっている要素を観点に、そこから醸し出されるよさや面白さ、美しさを感じ取って表現することができるようにする。また、演奏の仕方について課題意識をもつために、音楽設計図を基に、表現の意図や思いを話し合いながら相互発表・鑑賞する場を設定する。

ウ 課題追求Ⅲの過程では、旋律の重なりとその役割について着目させ、それぞれのフレーズを音の高さや終わりの音、リズムで比較して旋律の感じに合う演奏の仕方を探っていく活動を取り入れる。また、二重奏する際の大事な観点を挙げ、旋律の重なり合う響きに気づかせていく。

3 目 標

- (1) 旋律の重なりや美しさや長調と短調の曲の感じの違いに関心を持ち、自分の表現を振り返りながら粘り強く学習に取り組むことができる。

- (2) 自分たちの演奏を聴き比べながら、旋律の特徴を生かした歌い方や演奏の仕方を工夫することができる。
- (3) 旋律に合わせて盛り上げながら歌ったり、旋律の重なりを感じ取り、各パートの役割を意識してリコーダーで演奏したりすることができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	時	教材	主な学習活動	教師の働きかけ
課題把握	1・2	「赤いやねの家」	ふしの感じを生かして歌おう。	○ 歌詞の意味を理解するために、これまで引越しの経験がある子どもから話を聞く。
課題追求 I			○ 範唱を聴き、感じ取ったことについて話し合う。 ○ 各段の共通点や差異点を出し、盛り上がる箇所について確かめていく。 ○ 付点の歌い始めや中間部の伸びのある旋律等の比較をしながら歌う。 ○ 相互発表・鑑賞する。	○ 付点の始まりははっきりと発音し、伸びのある中間部ではブレスの取り方や音の処理に気を付けられるようにする。 ○ 旋律線の起伏を基に強弱を工夫できるようにするために、拡大楽譜を掲示したり、教科書に記入させたりする。
課題追求 II	3・4	「二輪の赤い花」	曲の山を意識して歌えたよ。	○ 短調の音階を視覚的にとらえることができるようにするために、鍵盤ハーモニカで音階を演奏する活動を取り入れる。
課題追求 III			○ 範奏を聴き、旋律の特徴について話し合う。 ・ 流れるようなふしの感じ（旋律） ・ さびしげな感じ（短調） ・ 一つ一つの音が長く演奏されている（リズム） ○ 長調と短調について知る。 ○ 主なふしの階名を調べたり、指使いの練習をしたりする。	○ 違うリズムでの重なり方がわかるように拡大楽譜を準備したり、提示機材の活用をし、楽譜の進み具合を示したりする。
課題追求 III	5		短調の曲の感じをつかんで演奏できた。 もう一つのふしを重ねてえんそうしよう。	○ 短調の響きや一つ一つの音の長さを十分に保ちながらタンギングや息の使い方を工夫できるように、録音機器を活用する。
課題追求 III	6（本時）		○ #ソの指使いを確かめる。 ○ もう一つの旋律を演奏する。 ○ ペアを決め試しの二重奏をする。	○ 二つの旋律の特徴をとらえるために、音の高さやリズムの違いで比較させたり、音の高さに合わせて手を上下させたりし、気づいたことを発表し合う活動を取り入れる。
課題追求 III			二つのふしの特徴をとらえ、音を聴き合って演奏しよう。	○ 二つの旋律の特徴をとらえるために、音の高さやリズムの違いで比較させたり、音の高さに合わせて手を上下させたりし、気づいたことを発表し合う活動を取り入れる。
課題追求 III	7		○ 演奏の課題を話し合う。 ・ リズムが違うところが難しい ・ もっとなめらかに演奏したい ・ 重なりがもっときれいに響くようにしたい ○ 二つのふしの違いを話し合って演奏する。	○ 二重奏で気を付ける観点に気付かせるために、何を合わせたらいのか問いかける。
まとめ			ふしの感じを生かして、友だちと合わせて二重奏しよう。	○ 始まりや終わりが揃えられるように、二重奏の際に入り方や終わり方をどうするか決めさせる。 ○ 聴く時の観点としてバランスや音の長さ、旋律と合っているか等を提示したり話し合いで確認したりできるようにする。
まとめ			○ 二重奏で気を付けることを話し合い、二重奏の練習をする。 ・ 入るタイミング ・ 音量（息使い） ・ ブレスの位置 ・ 速さ ○ 相互発表・鑑賞をする。	
まとめ			旋律の重なり合う響きが出るように演奏できた。	

5 本 時 (6 / 7)

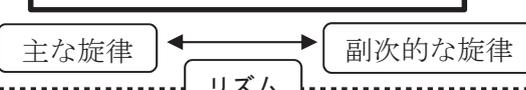
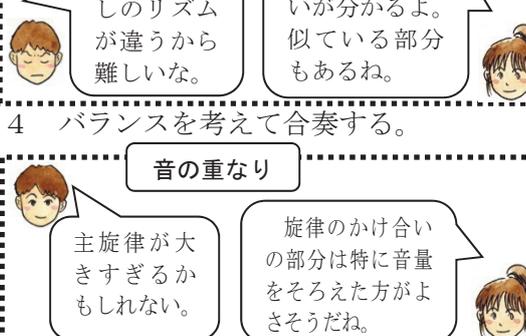
(1) 目 標

ふしの特徴を感じ取って演奏することに関心を持ち、重なり合う旋律の響きが出るように演奏を工夫し、拍の流れに合わせてリコーダーで表現することができる。

(2) 本時の展開に当たって

子どもたちが、自分の到達度を把握し、課題解決の見通しをもてるように、範奏と自分たちの演奏とを比較する活動を取り入れる。また、子どもたちに二つの旋律の重なり合う響きをつかませて表現させるために、それぞれのフレーズを音の高さや終わりの音、リズムで比較して旋律の感じを十分にとらえさせ、気付いたことを発表し合う活動を取り入れる。

(3) 実 際

過 程	主 な 学 習 活 動	時間	教師の具体的な働きかけ
課題把握	1 前時の演奏を聴き、課題をつかむ。 <ul style="list-style-type: none"> もっとなめらかに演奏したいな。 リズムが違うところが難しい。  <p>それぞれのふしの感じを生かして演奏できるといいな。</p> <p>思いや意図</p>	(分) ↑ 8	○ 範奏と自分たちの演奏を比較し、ふしの感じや響き合いについての課題を明確にさせるため、前時に録音した演奏を聴かせ「自分たちの演奏をよくするため、もっと工夫したいところはあるかな」と発問する。
課題追求	2 本時の学習について話し合う。 二つのふしの特徴をとらえ、音を聴き合って演奏しよう。	↓	○ 音楽を形づくっている要素を観点として課題と解決の方向を関係づけて考えさせるために、ワークシートを用いて思いや意図を記入させる。
	3 主な旋律と副次的な旋律を比較し表現の工夫について意見を交流する。 <p>音楽を形づくっている要素を基に比較</p> <p>主な旋律 ↔ 副次的な旋律</p> <p>リズム</p> 	↑	○ 二つの旋律の特徴をとらえるために、音の高さやリズムの違いで比較し、手拍子でリズム打ちをさせたり、音の高さに合わせて手を上下させたりして、「二つのふしの共通点や違いは何だろう。」と発問し、気付いたことを話し合う場を設定する。
表現の工夫	4 バランスを考えて合奏する。 <p>音の重なり</p>  <p>二つのふしのリズムが違うから難しいな。</p> <p>手拍子で違いが分かるよ。似ている部分もあるね。</p> <p>主旋律が大きすぎるかもしれない。</p> <p>旋律のかけ合いの部分は特に音量をそろえた方がよさそうだね。</p>	27	○ 演奏に対する思いや意図と実際の演奏を関係づけて聴かせるために、それぞれのグループの工夫した点と理由とを提示させてから発表させ、「思いや意図が演奏につながっていた部分はどこだろう。」と発問し、称賛やアドバイスを言い合う場を設定する。
相互発表・鑑賞	6 相互発表・鑑賞する。 <ul style="list-style-type: none"> リズムの違いや役割を意識して演奏することができた。 バランスを考えて演奏するときれいな響きになるね。 	↓	○ 前時の演奏と本時の演奏のふしの感じやバランスを比較させるために、演奏後に変わった点を挙げさせる。
まとめ	7 学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> 二つの旋律にはちがうところもあるけれど、それぞれによさがあって、合わせるともっといいね。 みんなで演奏を聴き合い、アドバイスをもらったから、バランスを考えて演奏することができたぞ。 	↑ 10 ↓	○ 本時の学習を生かしながら次の学習に取り組ませるために、できたりわかったりしたことについてまとめさせ、学びの振り返りをする。